

2026年度(令和8年度)学校評価自己評価表

大門中学校区	校番124	福山市立大門中学校
	最終更新日	2026年(令和8年)4月9日

I 福山市

めざす姿	すべての子どもたちが、自分自身の成長を実感できる学校教育の実現
------	---------------------------------

II 中学校区

前年度学校運営協議会(学校関係者評価)の主な内容	児童生徒の現状	主体性 表現力 協働性
<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感が低いことから、児童生徒により自信をつけさせる活動が必要 家庭での生活習慣への改善を軸として、地域や家庭、学校が一丸となって関わっていく 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力・表現力に課題がある。 自己有用感が低く、他者理解の醸成が十分にできていない。 スマホやゲームなどを長時間利用したり、家庭学習の習慣が定着できにくかったりする状況がある。 	<p>育成する資質・能力</p> <p>自己を認識し、自分の人生を選択し、表現することができる力を身につけた生徒</p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎・基本の定着と主体的に表現できる授業を創る。 生徒指導実践上の4つの視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安心・安全な風土の醸成)を生かした指導を進める。 メディア(ゲーム、インターネット、スマートフォン等)の利用の仕方を振り返り、授業につながる家庭学習の充実に向けた取組を進める。 学校における働き方改革を進める。

III 自校

学校教育目標
よりよく生きる力の育成 ~自治・貢献~

現状
<p><生徒></p> <ul style="list-style-type: none"> 素直で仲が良く、何事にも一生懸命取り組むことができる ボランティア精神にあふれ、校内外を問わず様々な活動に積極的に参加できる スマホやゲームに取り組む時間が長く、家庭学習の時間が少ない 授業と家庭学習の学習構造が脆弱で、学力の向上が思わしくない <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の定着のために朝の時間を活用してドリルに取り組んでいる 定期試験では、早期着手できるように範囲表を早期に発表している 生徒の実態に応じて、協働活動や個の課題に取り組む時間を工夫している スタディサプリの形式を変え、生徒が視聴しやすくし、時間を伸ばした 進級前に個の課題に取り組むことのできる補助教材を用意し、開始した 授業によっては一部生徒が指導に反発する状況が生じている

育成する力 資質・能力	主体性	表現力	協働性	
めざす子ども像	小学校 1,2年	自分がやらなければならない勉強や仕事を進んで行っている。	生活体験や既習事項から順序立てて自分の考えをもち、絵や言葉、動作などを駆使して表現している。	身近な人に温かい心で接している。
	3,4年	集団の中で、自分がやるべきことに気付き、進んで行動している。	生活体験や既習事項から理由や根拠をもとに自分の考えをもち、絵や言葉、動作など適切な方法を選択し、表現している。	相手の気持ちを考え、行動している。
	5,6年	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、自分から行動している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、論理的に説明したり、適切な方法を選択したりして表現している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
	中学校 1年	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、自分から行動している。	生活体験や既習事項から適切な理由や根拠をもとに、自分の考えをもち、目的や意図に応じて、論理的に説明をしたり、適切な方法を選択したりして表現している。	相手を思いやることの大切さに気付き、相手の立場を尊重し、行動している。
	2,3年	集団の中で、相手や場の状況に応じて、自分でより高い目標をもち、粘り強くやり抜くことができるよう行動している。	生活体験や既習事項から判断の根拠や理由を示しながら自分の考えを述べたり、情報を他者と共有したりしながら、必要な選択をし、表現している。	仲間とともに、何かを成し遂げた成功体験をもとに、人と人とのつながりの中で、助け合い励まし合って行動している。
研究	テーマ	すべての生徒に基礎学力の向上をめざした学習形態を研究する		
	内容等	問題データベースの活用、英検 IBA の活用、授業づくりポートフォリオの活用などを通して学力向上をめざす授業づくりを研究する		
めざす授業の姿	「データに基づいた個別最適化と、客観的な振り返りによる改善サイクルが確立された授業」をめざす。具体的には生徒が自ら「つまずき」に気づける授業、根拠(エビデンス)に基づいて立案された授業、教員と生徒が共に更新し続ける授業。			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 大門中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	プロセス 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	プロセス 評価	達成 評価	総合 評価
1	基礎学力の向上と学び続ける力の育成	◎	学力	定着と確認のための取組を実践し、家庭学習時間増加を習慣化させる	・校内授業研修会を実施し、教師自身が授業を振り返り改善する。 ・学力調査結果を職員全体で分析する。	・標準学力テストの学校平均が福山市内平均以上。 ・4月と比べて家庭学習時間が増えたと回答した割合が22%以上								
1	多様な学びの場の充実	◎	教育活動	安心して学べる支持的集団づくりを推進し、特活や行事を生徒主体で行う	年間を通して縦割り集団を活用した自治活動(城興CUP)を仕組む。	・生徒アンケート「城興カップを意識した活動がきている」を80%以上。								
1	不登校の未然防止と支援の充実	○	不登校	生徒に関する情報共有の場を確保し、未然防止と積極的な指導体制を構築する	家庭訪問を継続的に実施し、生徒や保護者と密な連携を実施し、学びの保障に向け取り組む。	・登校が難しい生徒は、SCHOOL'Sやフリースクール、教室外からのICT等を利用した学習に80%以上つなげる。								
1	教職員が生き生きと働ける環境整備	○	働き方	やりがい優先でできる業務体制を構築し、併せて退校時間を減少させる	・教育課程を見直し、学校全体での業務の効率化と精選を図る。	・教職員アンケート「仕事にやりがいを感じている」80%以上。								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難しく、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。